

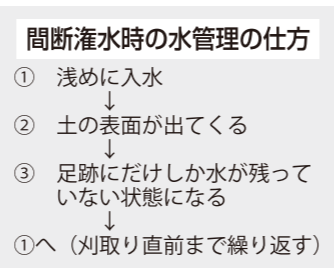
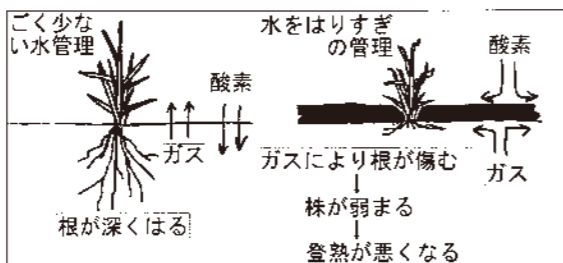
令和3年産伊賀米品質向上を！

全員で一致団結して食味ランキング特A奪還を目指しましょう！

中干しと水管理 ～中干しは早めに、中干し後はとにかくごく少ない水の量で管理を～

コシヒカリで1株25本程度（50株／坪）茎数が確保できたら（6月中旬）を目安に中干しを行いましょ。大きなヒビが入るほど行うのではなく、軽い中干しを繰り返すように（間断灌水）行いましょう。軟弱苗のほ場は、水管理の徹底をお願いします。

中干し後は、間断灌水を行い、水管理に注意しましょう。



●中干しの効果

- ・土壌中に酸素が入り、硫酸水素等の有害物ガスの発生が抑えられ、根の活力が高まり、かん水後に養分吸収が盛んになる。
- ・無効分げつ期の窒素過剰吸収を抑え、稲が強くなり、無効分げつを少なくする。
- ・田面が硬くなり稲の根元が強くなり、下部節間が伸びすぎず、倒伏しにくくなる。また、登熟後に落水した時も、田面の乾燥が早く、刈取作業が容易になる。

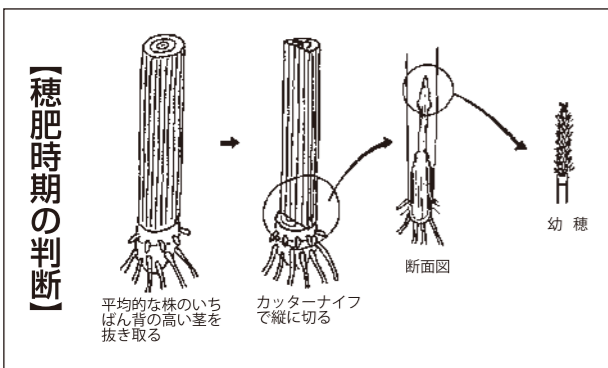
調整肥

けい酸加里は幼穂形成期から登熟期までの間に、全吸収量の3/4程度が吸い上げられます。

- けい酸加里…出穂45日前まで 10a当たり30～40kgの施肥。
- マルチサポート1号…出穂30～45日前 10a当たり20～40kgの施肥。

穂肥 ～稲に無理をさせすぎない施肥量～

1つ1つの籾に十分に栄養を与えるため、極端な穂肥減肥は避け、地力に応じた施肥を行いましょ。栄養が少ないと白未熟粒が増え、品質を落とす恐れがあります。



穂肥施用のポイント

- 穂肥前の理想的な草姿
 - ・下葉まで立ち条間スッキリ見通せる
 - ・1株約25本程度（50株／坪の場合）で株元スッキリ
 - ・草丈70cm以内、第4節間5cm以内
 - ・いもち病にかかっていない
- ※6月下旬～7月上旬に各営農経済センター単位で青空教室を開催しますので是非参加をお願いします。尚、参加できない方は、営農指導員に是非ご相談ください。

除草剤（後期剤）の注意点

- ・使用する剤により使用時期が異なるので、ラベルをよく読み、使用基準を守りましょ。
- ・バサグラン粒剤は、落水後に使用して下さい。
- ・後期剤（2・4-D粒剤）は、低温時は効果が小さいので使用時期を注意して下さい。
- ・詳しい内容については、わが家の稲作設計書を参考にして下さい。

病害防除の徹底を！

穂いもちの伝染源である葉いもちは早期防除を行いましょ。今年は梅雨入りが早く、いもち病の発生条件が整っています。

●発生条件

- ・温度25～28℃で多雨年に多い
- ・砂質土壌で発生しやすい
- ・多肥条件で多発する
- ・過繁茂部や置き苗の周囲で発生が多い
- ・いもち病菌は種子粉、被害わら等で越冬する為、前年度多発圃場では、発生が多い

●防除方法

- ・下記の農薬を使用し、予防防除を基本とする

オリゼメート粒剤	葉いもち病・白葉枯病（粒剤のみ）	6月中旬
コラトップ粒剤5・豆つぶ	いもち病（予防剤）	7月上旬
ゴウケツ粒剤・パック	いもち病（予防剤）	7月上旬
オリブライト粒剤・250g豆粒	いもち病・ごま葉枯病・紋枯病（予防治療剤）	6月中旬
ブラシン粉剤DL	いもち病・ごま葉枯病（予防治療剤）	（発生時）

- ・置き苗は必ず除去する。

ラジコンヘリ共同防除

当JAでは無人ヘリによる防除も実施しており、省力化となりますので、防除作業が難しい等お困りの方は最寄りのふれあい店又は営農経済センターまでお問い合わせ下さい。

- ラジコンヘリ共同防除は、地域一斉の共同防除のため必ず地域での取りまとめが必要となります。地域一丸となって効果的な共同防除を実施しましょ！